

東播磨港

兵庫県県土整備部土木局港湾課

〒650-8567 神戸市中央区下山手通5-10-1

☎078-341-7711(代)

URL: <http://web.pref.hyogo.lg.jp/kowan/index.html>



1. 概況

東播磨港は、播州平野の東部の海の玄関として、古くから利用されていた二見、別府、高砂の地方港湾を昭和38年11月に統合して設立された重要港湾で、東西14kmにわたり、東二見、二見、西二見、播磨、別府、加古川、尾上、高砂、荒井、伊保の各地区によりなっている。

本港臨海部は、すぐれた立地条件を背景に大規模な工業用地が造成され、鉄鋼、電力、化学、機械などを基幹に各種の企業の進出が相次ぎ、これに対処するため、播磨工業地帯の東部の流通拠点として、港湾整備がなされてきた。

二見地区は、昭和45年より着工し、50年に面積227万㎡の埋め立て地が完成した。その土地利用については、主として中小企業用地としての都市機能用地151万㎡及び工業用地54万㎡をはじめ、公園用地18万㎡などであり、活力ある東播磨地区の生産活動をささえ、地域発展への強力な基盤として、大いに期待されている。主に内貿貨物を取扱う施設として-5.5m岸壁4B及び物揚場260mの整備が完了しており、更に-7.5m耐震強化岸壁1B及び約19万㎡の埠頭用地等について、背後交通体系と調和を図りながら整備中である。

播磨地区は、流通港湾、鉄鋼港湾として整備がなされており、公共施設として、-12m岸壁2B、-10m岸壁1B、-7.5m岸壁4B、-5.5m岸壁5B及び物揚場900mが整備されており、埠頭用地は19万㎡である。

また、面積210万㎡の埋め立て地に金属機械系企業が立地している。

加古川地区には、神戸製鋼所加古川製鉄所が立地し、年間約700万トンの粗鋼生産規模で操業している。

高砂地区は、工業用地としての良好な立地条件から、主に化学、機械などの企業が立地しており、それら企業が取扱う原材料、製品等の搬出入基地として利用されている。

また、市民、学識経験者、企業、行政で構成する高砂西港再整備推進協議会がとりまとめた「未来に向けた高砂西港みなとづくり(平成21年4月)」に基づき、再整備事業を実施した。それにより整備した公共埠頭から、神戸港へフィーダー航路が就航している。

伊保地区は、-5.5m岸壁3B、-4m物揚場などの公共内貿施設が整備されており、主に建設資材を取り扱っている。